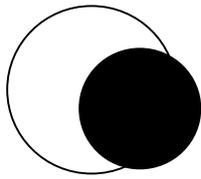


沿 革

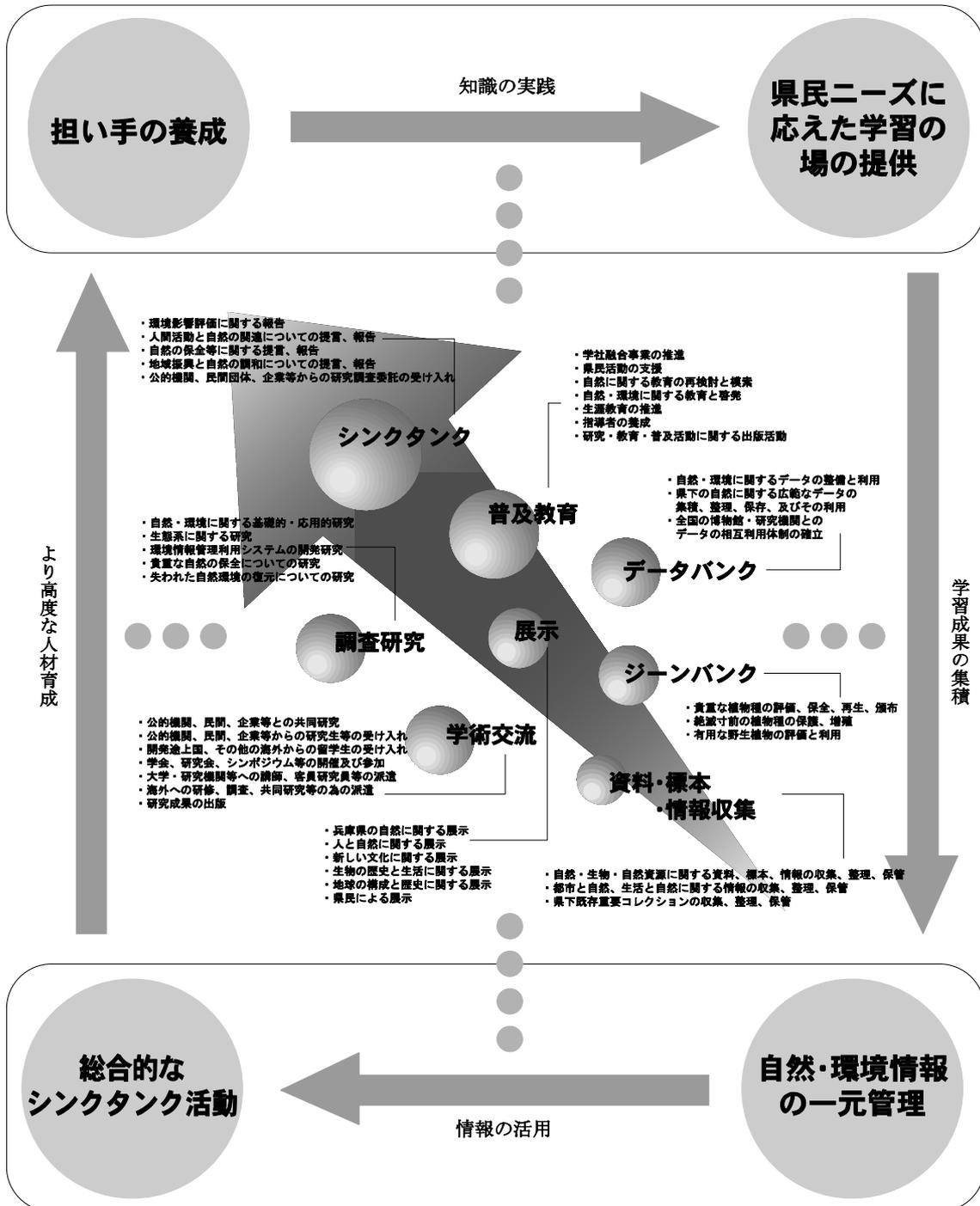
- 昭和 44 年 2 月 26 日 「県立自然科学博物館設置について」県議会に請願が行われた。
- 昭和 44 年 6 月 5 日 県議会において請願が採択された。
- 昭和 48 年 6 月 兵庫県自然保護協会から環境保全・自然保護活動の分野の博物館設置について要望書が提出された。
- 昭和 51 年 5 月 I F H P 兵庫国際会議が開催され、人間居住環境研究センターを設置する必要性が認められた。
- 昭和 59 年 4 月 自然系博物館建設調査費が予算計上された。
- 昭和 61 年 12 月 兵庫県立自然系博物館建設基本構想（報告）が策定された。
- 昭和 63 年 8 月 自然系博物館は三田市のホロンピア館を活用して建設することが決定した。
- 平成元年 4 月 1 日 兵庫県教育委員会社会教育・文化財課に自然系博物館（仮称）設立準備室が設立された。
- 平成 3 年 12 月 研究・収蔵棟が完成した。
- 平成 4 年 3 月 25 日 本館（ホロンピア館）の様様替え工事が完了した。
- 平成 4 年 4 月 1 日 兵庫県立人と自然の博物館の設置および管理に関する条例および同規則が施行され、同時に人と自然の博物館内に姫路工業大学自然・環境科学研究所が設立された。
- 平成 4 年 6 月 25 日 ジーンファームが完成した。
- 平成 4 年 9 月 20 日 エントランスホールが完成した。
- 平成 4 年 9 月 30 日 コートヤードゾーン、屋内展示工事、情報センター設備が完成した。
- 平成 4 年 10 月 9 日 兵庫県立人と自然の博物館開館および姫路工業大学自然・環境科学研究所開所の記念式典が挙行された。
- 平成 4 年 10 月 10 日 開館。
- 平成 9 年 6 月 14 日 マレーシア国立サバ大学と国際学術交流協定を締結した。
- 平成 9 年 11 月 4 日 文部省の科学研究費補助金取扱規定による研究機関に指定された。
- 平成 10 年 3 月 12 日 日本育英会施行令による日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所に指定された。
- 平成 11 年 11 月 13 日 NPO 法人「人と自然の会」（博物館ボランティア）と協力協定を締結した。
- 平成 13 年 4 月 兵庫県教育委員会行政組織規則の改正に伴い、博物館の組織が大きく改編され規則の改定を行い、博物館事業の新展開を公表した。
- 平成 14 年 4 月 博物館事業の新展開を着実に推進するために、平成 18 年度までに実現させる数値目標と考え方を示した中期目標を公表した。
- 平成 14 年 10 月 博物館が開館 10 周年を迎え、10 周年記念式典を執り行った。
- 平成 16 年 4 月 県立大学の統合に伴い、博物館に設立する研究所を兵庫県立大学自然・環境科学研究所に改称した。
- 平成 19 年 3 月 新たな「兵庫県立人と自然の博物館」基本構想が策定された。



機能

生涯学習の支援

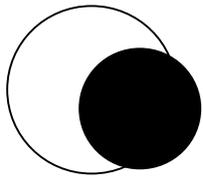
- ・展示法の創意工夫と資料の充実
- ・生涯学習実践フィールドの充実
- ・生涯学習の担い手の養成
- ・広報の充実



自然・環境に関するシンクタンク機能

- ・総合的なシンクタンク機能の充実
- ・自然・環境情報の一元管理と絶滅危惧植物の保護増殖

博物館の基本8機能と重点事業の展開方針



平成19年度事業計画

展示プログラム

◆特別開館

連休や夏休みなどのお客様が博物館を利用しやすい時期は無休で開館します。

- ゴールデンウィーク（4月28日～5月6日）期間中、無休開館
- 夏休み（7月21日～8月31日）期間中、無休開館
- お正月（平成20年1月3日、4日）、新春開館

◆企画展

常設展では学べない新しい情報を学べるよう、展示物を通じて季節代わりでご用意します。

- 共生の風景 平成19年2月17日～平成19年6月10日
- 瀬戸内海のいまとむかし 平成19年7月7日～平成19年9月24日
- ひょうごのの里山 日本の里山 平成19年10月20日～平成20年1月20日
- クリプトガミック・ボタニー～隠花植物の不思議な世界 平成20年2月23日～平成20年6月8日

学習プログラム

◆フロアサービス

いつ博物館に来てもしっかり学べるよう、フロアスタッフが毎日日替わりの楽しいプログラムを用意しています。

- デジタル紙芝居（毎日 午前11時から11時15分、午後2時30分から2時45分）
自然について楽しく学べる、ひとはくオリジナルの動く紙芝居を大型スクリーンで上映します。
- 展示室ツアー（平日 午後1時30分から1時50分、土日祝日 午前11時30分から11時50分）
ひとはくの展示のみどころを日替わりでフロアスタッフが楽しく紹介します。
- フロアスタッフとあそぼう（毎週土日 午後3時から3時30分）
生き物をモチーフにした折り紙やペーパークラフト、お絵かきや塗り絵をしてフロアスタッフといっしょに遊びます。
- ふかたん「深田公園うきうき探検隊」（4月、5月、8月、9月、10月、11月、2月、3月の第4日曜日）
ひとはくに隣接する深田公園を研究員・フロアスタッフとともに探検してさまざまな生き物を観察します。

◆イベント

大小さまざまなイベントを用意して、自然や生き物への興味をもつきっかけを提供します。

- はくぶつかんの日（毎月第三日曜日）
観覧料のみで参加できるファミリー向け、子ども向けのプログラムを平日よりも数多く開催します。ひとはく連携グループ“NPO法人 人と自然の会”が用意する体験・体感できるイベント“ドリームスタジオ”も参加できます。
- ひとはくフェスティバル（平成19年11月4日）
年に一度の人と自然、人と人をつなぐ博物館の秋祭りです。すてきなイベントを多数用意します。

■ひとはくサイエンスショー2007（平成19年11月11日、12月23日、平成20年2月17日）
小中高等学校などの教職員や高校生も参加して、小中学生向けの実験・観察を多数実施します。

■共生のひろば（平成20年2月11日）

県民のみなさんが地域で調べた自然、環境、文化についてのとっておきの発見を報告しあう発表会を開催します。

◆オープンセミナー

観覧者対象の当日参加・受講料無料の短時間でやさしい内容のプログラムを用意します。小さなお子さまからご家族まで楽しく参加できるテーマを今年度は58テーマ用意しました。

◆セミナー

平成19年度は全158テーマのセミナーを開催します。さらに学会認定の継続教育プログラムや、来館団体向けの事前予約制セミナー“特注セミナー”も多彩なタイトルを用意しています。

◆キャラバン事業・地域研究員養成事業

研究員が県下各地に出張し、展示活動やセミナー、リサーチプロジェクトなどのプログラムを通じて、各地の県民やNPO、行政などが取り組む、地域の自然・環境・文化についての学習や活動をサポートします。

◆スクールパートナープログラム

■高校連携セミナー

県立三田祥雲館高等学校、県立有馬高等学校およびクラーク記念国際高校と博物館が連携して、高校生と一般市民の方々が交流しながら学ぶ地域生涯学習のモデルプログラムを提供します。今年度は兵庫県立大学附属中学校との連携など高校以外に中学校、幼稚園等とも連携することを模索します。

■夏季教職員セミナー

ひとはくの有する豊富な学習資源を活用し、実験や観察を中心とする多様なセミナーを教職員に提供します。

■ミュージアムスクール

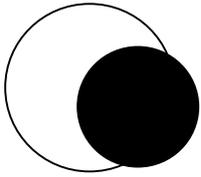
ミュージアムティーチャーと専門研究員のわかりやすい解説を行います。

■ミュージアムハイスクール

来館学校団体向けのセミナーを充実させています。また、高校生を対象としたオープンミュージアム。「博物館まるごと1日体験」も実施します。

■ひとはくサイエンスショー2007

小中高等学校などの教職員や高校生も参加して、小中学生向けの実験・観察を多数実施します。



常設展示の概要

(1) ナチュラリストの幻郷

博物館に寄せられた多数のコレクションについて、標本を見てその意味を知り、コレクションすることの楽しさを味わう展示です。この展示には、「鳥に魅せられて—小林桂助氏の足跡とコレクション研究」、「江田茂コレクション—世界からやってきた美しい昆虫たち」、「博物館を支えたコレクション」、「資料トピックスコーナー」、「寄贈者リスト」などのコーナーがあります。

(2) 兵庫の自然誌

兵庫県は日本海と瀬戸内海にまたがる数少ない県であり、北部の多雪地帯から南部の暖温帯まで、多様な自然を有しています。

この展示では、兵庫県の多様な自然を紹介し、それらが人とのかかわりの中でどのように成立・維持してきたかを説明しています。兵庫の森に棲む動物たちを標高別に展示している「森に生きる」をはじめ、「池沼と海」、「六甲のアカマツ林」、「北摂の雑木林」、「氷ノ山のブナ林」、「氷上回路」、「上昇する六甲」などのコーナーがあります。

(3) 人と自然

人と自然はこれまでどのように関わってきたのでしょうか。時代とともに変化してきた人と自然とのかわりを分かりやすく説明しています。

この展示では、「森の変遷」、「自然と調和した暮らしと風景」、「都市化の問題」、「自然のデザイン」、「警鐘」などのコーナーがあります。

(4) 新しい文化

家庭での日々の暮らしから自然保護や環境問題まで取り上げ、それらに対する様々な取り組みが紹介されています。

この展示では、「環境にやさしい暮らし方」、「公園都市」、「水辺の復権」などのコーナーがあります。

(5) 生物の世界

過去から現在にいたる長い年月の歴史の産物である、生物の種・分布・生活などについて標本・パネル・映像等を使って展示・紹介しています。

この展示では、「森に囲まれた溪流」、「上・中・下流の生活」、「種分化」、「変異」、「系統と収斂」、「大陸移動と生物の分布」、「日本の動植物の由来」などのコーナーがあります。

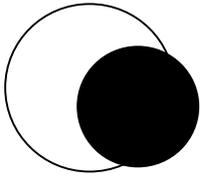
(6) 地球、生命と大地

地球上で展開される生命の営みと進化、そして大地の運動などを標本・パネル・ジオラマ・映像などで紹介しています。

「生物世界の拡大」、「生物の上陸」、「霊長類の進化とヒトの起源」、「地球を構成する物質と構造」、「岩石に残る地磁気の記録」、「世界の森」、「世界の木材」、「共生の森」などのコーナーがあります。

(7) ひとくサロン

人と自然の博物館の楽しみ方は、展示室を観覧することだけではありません。4階「ひとくサロン」では、めずらしい資料も実際にご自分の手に取ってご覧ください。また、絵本から専門図書までいっばいの蔵書を取り揃えた図書コーナーや映像資料ライブラリ、インターネットなどを利用して、小さいお子さまから大人までたのしく学ぶことができます。毎月第3日曜日の「博物館の日」には、お申込なしでご参加頂ける「オープン・プチセミナー」も開催。深田公園を一望できる「ひとくサロン」をぜひご利用ください。

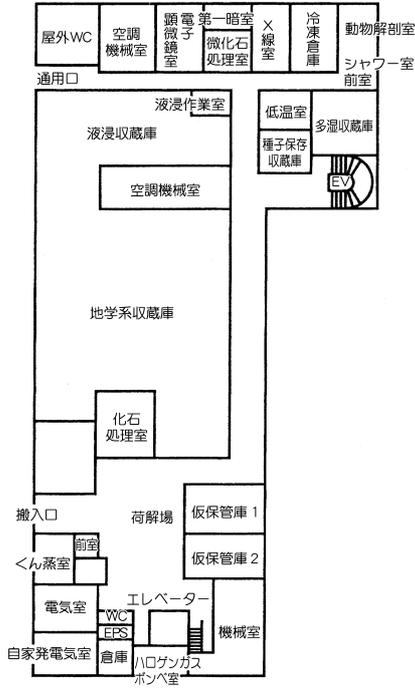


施設の概要

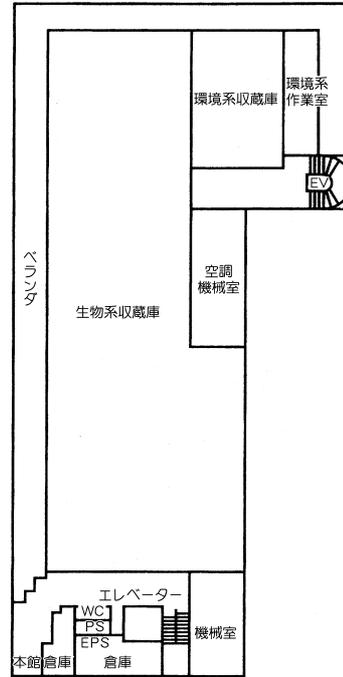
- (1)規模 敷地（設置許可・使用承認面積）：37,036.54 m² 延床面積：18,691 m²
- (2)建物構造
- ・本館（鉄骨4階建） 建面積 4,221 m² 延床面積 12,222 m²
 - ・エントランスホール（鉄筋コンクリートドーム型）
建面積 360 m² 延床面積 360 m²
 - ・研究、収蔵棟（鉄筋コンクリート3階建）
建面積 2,327 m² 延床面積 5,988 m²
 - ・ジーンファーム管理棟（軽量鉄骨平屋）
建面積 121 m² 延床面積 121 m²
- (3)施設の概要
- ・本館（鉄骨4階建）
外観は、建築家丹下健三氏の設計による全面ハーフミラー張りの建物。
展示関係のスペースをはじめとして電子計算機室や各研究部・総務課・生涯学習課・情報管理課・各事業室を設置。さらに500人収容のホロンピアホールも設置。
 - ・エントランスホール（鉄筋コンクリートドーム型）
博物館への導入的役割を果たしているハーフミラー張りでドーム型屋根の建物。
観覧券の発売や博物館の総合案内を実施。
 - ・研究、収蔵棟（鉄筋コンクリート3階建）
研究や資料整理のための各設備と資料の保存条件に合わせた各収蔵庫を設置。屋上には植栽を実施。
 - ・ジーンファーム
ジーンバンク事業を实践とする場として圃場・ガラス室・研究温室・育成温室・昆虫網室、管理棟を設置し、主に県内産の重要植物の保護・増殖に活用。
- (4)施設状況
- ・展示関係 4,049 m² ・管理関係 349 m² ・収蔵関係 2,951 m²
 - ・研究関係 2,015 m² ・教育普及関係 1,324 m² ・エントランス 360 m²
 - ・機械、その他 7,643 m²

●研究・収蔵庫棟

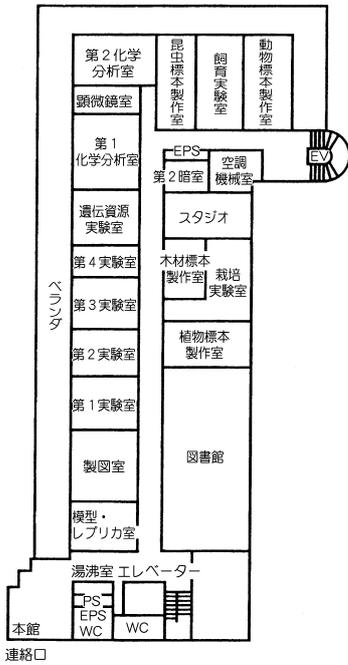
1階



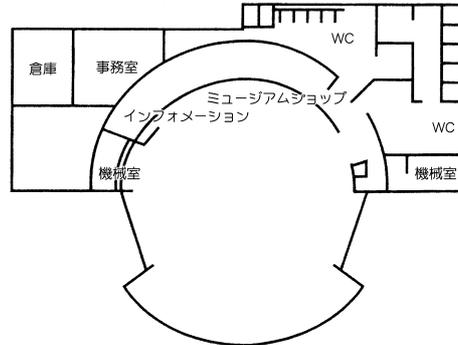
2階

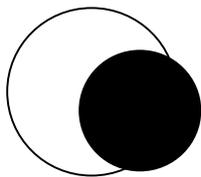


3階



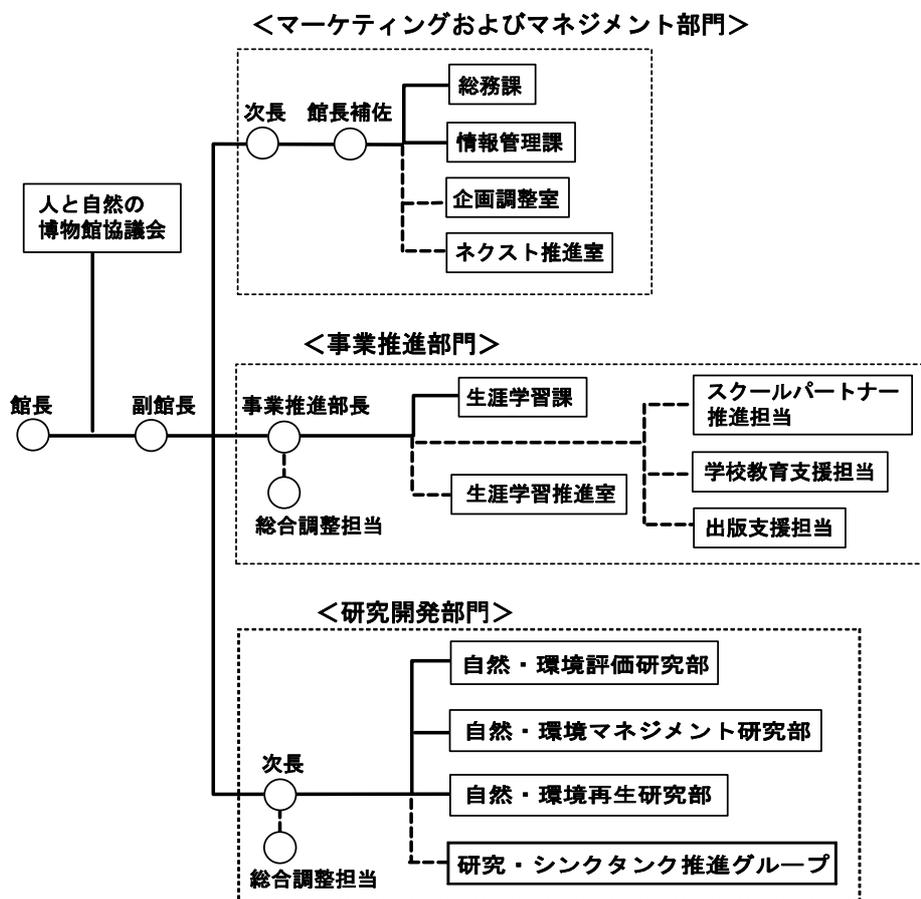
エントランスホール





組織と職員

(1) 組織図



※ 実線は組織規制上の職制で、破線は館長辞令による博物館独自の職制

(2) 職員数

区分	事務職	研究職	技能労務職	非常勤嘱託員	合計
総務課	6		1	2 (館長・名誉館長)	9
情報管理課	2				2
生涯学習課	4				4
自然・環境評価研究部		6 (兼務 10)			6 (兼務 10)
自然・環境マネジメント研究部		4 (兼務 9)			4 (兼務 9)
自然・環境再生研究部		2 (兼務 5)			2 (兼務 5)
合計	12	12 (兼務 24)	1	2	27 (兼務 24)

※ (兼務) は兵庫県立大学 自然・環境科学研究所との兼務職員

(3) 職員配置

名誉館長	河合 雅雄
館長	岩槻 邦男
副館長	中瀬 勲
次長(事務系)	坂本 啓
次長(研究系)	江崎 保男
館長補佐	西向 寛昭
事業推進部長	(副館長兼務)
事業推進部門総合調整担当	服部 保
研究開発部門総合調整担当	小林 文夫

【マーケティング及びマネジメント部門】

総務課

課長	(館長補佐兼務)
主査	岡井 豊英
主査	川東 丈純
主査	前田容未子
主査	田邊 武史
技師	塚本 健司

情報管理課

課長	藤村 仁志
指導主事	本田 毅

企画調整室(研究員兼務)

室長(主任研究員)	高橋 晃
主任研究員	先山 徹
主任研究員	加藤 茂弘
主任研究員	三橋 弘宗
研究員	布施 静香
研究員	嶽山 洋志
研究員	遠藤菜緒子

ネクスト推進室(研究員兼務)

室長(主任研究員)	田原 直樹
主任研究員	客野 尚志
研究員	三枝 春生
研究員	鈴木 武
研究員	石田 弘明
研究員	田口 勇輝

【事業推進部門】

生涯学習課

課長	平松 紳一
指導主事	谷川 直也
指導主事	春名 潤一
主査	小林 美樹

スクールパートナー推進担当(指導主事兼務)

指導主事	本田 毅
指導主事	谷川 直也
指導主事	春名 潤一

学校教育支援担当(研究員兼務)

主任研究員	中西 明德
主任研究員	大谷 剛
主任研究員	中瀬 勲
主任研究員	小林 文夫
主任研究員	三谷 雅純
主任研究員	藤井 俊夫
主任研究員	松原 尚志
研究員	沢田 佳久

出版支援担当(研究員兼務)

研究員	赤澤 宏樹
研究員	嶽山 洋志

生涯学習推進室(研究員兼務)

室長(主任研究員)	佐藤 裕司
主任研究員	古谷 裕
主任研究員	橋本 佳明
主任研究員	八木 剛
主任研究員	半田久美子
研究員	藤本 真里
研究員	橋本 佳延

【研究開発部門】

自然・環境評価研究部

研究部長	高橋 晃
研究部長代理(主任研究員)	佐藤 裕司
(地域環境地質研究グループ)	
研究部長代理(主任研究員)	佐藤 裕司
主任研究員	小林 文夫
主任研究員	先山 徹
主任研究員	加藤 茂弘
(埋蔵自然遺産研究グループ)	
主任研究員	古谷 裕
主任研究員	半田久美子
主任研究員	松原 尚志
研究員	三枝 春生
(森林多様性研究グループ)	
研究部長	高橋 晃
主任研究員	秋山 弘之
主任研究員	高野 温子
研究員	布施 静香
(昆虫共生系研究グループ)	
主任研究員	中西 明德
主任研究員	橋本 佳明
主任研究員	八木 剛
研究員	澤田 佳久

自然・環境マネジメント研究部

研究部長	江崎 保男
研究部長代理	田原 直樹
(流域生態研究グループ)	
研究部長	江崎 保男
主任研究員	田中 哲夫
主任研究員	三橋 弘宗
(動物共生研究グループ)	
主任研究員	大谷 剛
主任研究員	三谷 雅純
研究員	遠藤菜緒子
研究員	田口 勇輝
(コミュニティデザイン(多自然居住)研究グループ)	
副館長	中瀬 勲
研究員	藤本 真里
研究員	赤澤 宏樹
研究員	嶽山 洋志
(コミュニティデザイン(都市再生)研究グループ)	
研究部長代理(主任研究員)	田原 直樹
主任研究員	客野 尚志

自然・環境再生研究部

研究部長	服部 保
(植生創出研究グループ)	
研究部長	服部 保
研究員	小館 誓治
研究員	石田 弘明
研究員	橋本 佳延
(生物多様性保全研究グループ)	
主任研究員	藤井 俊夫
研究員	鈴木 武
研究員	黒田有寿茂

研究・シンクタンク推進グループ(研究員兼務)

リーダー(主任研究員)	田中 哲夫
主任研究員	古谷 裕
主任研究員	秋山 弘之
主任研究員	高野 温子
研究員	小館 誓治
研究員	橋本 佳延
研究員	黒田有寿茂

(平成19年4月1日現在)

なお下線は館長辞令による、人と自然の博物館独自の職制